

# 第二期に向けて！

後継者倫理塾リポート 3月19日、熊本県民交流館バレア9階にて



3月と5月、私たち後継者倫理塾運営委員は、第二期後継者倫理塾説明会を行った。時は、報道などでイギリス型変異株が騒がれ始め、徐々にその猛威が首都圏を中心に隣接する都市に広がってきたタイミングだった。運営委員は、久保山文生塾長の「正しく恐れる」という言葉を胸に、コロナウイルスに対しての十分な対策の中、定期的な勉強会や委員会など開催してきた。私たちを突き動かしてきたものは、忘れもしない昨年参加した塾生11名の多様なドラマだった。塾生一人ひとりとどれだけ向き合えるのか？まさに、運営委員それぞれの胆力も試されるものでもあった。

## 後継者倫理塾説明会スタート！

### 第1回講話者は西田大樹修了生。

昨年11月の修了式から4ヶ月。コロナにより当初予定を大幅に変更して、第二期の塾生募集説明会がスタートした。村上県会長からは、大きな経済の落ち込みで多くの経営者が心持ちを不安にさせてしまう状況の中、倫理は苦難を乗り越える考え方を学ぶもの。このことを未来を繋ぐ若い世代の経営者、後継者に伝えていくことはわたしたちの役割であると倫理経営の

エッセンスたっぷりの挨拶をいただいた。塾生スピーチには、西田硝子株式会社 西田大樹修了生が選ばれた。西田さんは倫理塾を受けて大きな変化があった塾生の一人だ。



## 心の支えとなったもの

入社して4年目のある日、お祖父さまから倫理塾のチラシを渡されたという。入塾当時は「見事に騙されてしまった感があった」と西田さんは語る。当時、28歳だった西田さんは「これまで大人になって大人に叱られることはなかった。姿勢によって体はバリバリ、声はスカスカ。本当に大変だった。」ただ、そんな中でも心の拠り所となったのは、同じ後継者という境遇で、同じ経緯で入塾してきた仲間が存在だった。それが続けられた大きな理由だった、と。

## 自身を変えた「富士研」でのカリキュラム

富士研のことはお祖父さまから聞いていた。挨拶は明るく、やることはすぐにやる。今更、そんな当たり前のこと分かっていない。そんな思いで始まった富士研。恩の源で自身を冷静に振り返ることができ、お父様に対する思いにも立ち返ることができたという。とにかく向き合う姿勢が大切。行っただけには集中してやる。と決めた瞬間から気持ちも大きく変化した。

### 西田さんより 二期生に向けてのメッセージ

最初は嫌々でもいい。その気持ちは徐々に変化していくので、純粹な気持ちで取り組んでいただきたい。徐々に何かを吸収してやるという思いに変化してくるから。

修了式に参加された方は鮮明に覚えておられるだろう。西田さんの発表は、多くの聴衆が目を抑えるほど、まっすぐなものだった。塾生にとっては、修了式からが本当のスタート。時には誰に相談することなく決断をしなければならぬこともあるのが経営者。塾での学びと実践を心に据え、これからは前に進んでいただきたい。